

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                    |     |              |
|----------------|--------------------|-----|--------------|
| ○事業所名          | 重心型放課後等デイサービスSunny |     |              |
| ○保護者評価実施期間     | 2025年 1月26日        |     | 2025年 2月 14日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)             | 14名 | (回答者数) 13名   |
| ○従業者評価実施期間     | 2025年2月10日         |     | 2025年2月17日   |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)             | 9名  | (回答者数) 9名    |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年3月15日         |     |              |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※)だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること             | 工夫していることや意識的に行っている取組等   | さらに充実を図るための取組等   |
|---|--|---|--|
| 1 | お子さん達が通所を楽しみにしてくださっており、保護者さんの満足度が高い事。                  | お子さん達や保護者さんのことを十分に理解できるよう、職員間で情報を共有するように取り組んでいます(日々の打ち合わせ、面談記録の作成、伝達等)。またお子さん達が安全に通所でき、保護者さんの思いを共感できるようコミュニケーションを取るよう心がけています(送迎時の声掛けやHUGを通じた双方向のやり取り等)。 | ・現在のSunnyでもご満足いただいているというご意見には大変感謝しております。ただ1年目に実施できていたお出かけや保護者さんとの交流企画など、実施できなかった事も多かった2年目でした。<br>・保護者さんとの情報共有を軸に、お子様の成長促していけるように、季節ごとの行事やイベントを企画していきます。それらを通じてお子様たちの興味関心や好きな事を広げられる様な取り組みを行っていきます。 |
| 2 | お子さん達が自己選択・自己決定できるような支援の工夫をしている事。自己決定する力を育てる支援を行っている事。 | お子さん達それぞれの特性の理解に努め、職員間で意見を出し合っています。それを踏まえて意志表出し自己決定できる場面の設定に努めています。毎日の活動の終わりには、その日に子どもさんが素敵だった出来事をみんなで共有し、ともに喜んでいます。                                    | ・お子さん達が「楽しい!」と感じられる活動を日々の中で工夫しながら提供します。またお子さん達の「楽しい! もっとしたい!」といった意思表示をしっかりとキャッチできるように、職員同士で振り返りながら観察の目を養います。<br>・活動の実施、振り返りを高い頻度で行い楽しみの時間がお子さん達の成長に繋がるよう取り組んでいきます。                                 |
| 3 | 個別支援計画や日々の活動について、多職種で意見を出し合い、実施することができている事。            | 多職種それぞれの評価を情報共有し、子どもが安全に安心してご利用いただけるよう取り組んでいます。また成長発達のために実施できることについて意見を出し合って次の活動、関わり方の工夫をしています。毎日、活動後に振り返りを行い、気づいた点や改善点について出勤者で意見交換を実施しています。            | 概ね月一回の事業所内でのケースカンファレンスを行います。こまめにお子様への体調や成長についての情報を職員全体で共有し振り返ることで、半年に1回の計画書の更新時だけの振り返りよりも、よりきめ細やかな支援計画の作成、より具体的な活動の提案に繋がってほしいと思います。  |

|   | 事業所の弱み(※)だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること                                    | 事業所として考えている課題の要因等  | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等   |
|---|---|--|--|
| 1 | 地域交流に関して。他事業所や地域の子ども達と活動する機会が少ない。   | 同法人の保育園児との交流の機会は設けていますが、まだ地域の子たちとの具体的な交流の場は設けられていません。もうすぐ開業後2年が経過しますが、まだまだ日々の活動の提案や、業務分掌を試行錯誤を続けているなかで、地域活動、交流推進担当を事業所内で選任出来ていない事もその一因となっている。    | 行事や交流担当を決めて、地域の資源の開発や新たな繋がり作りのため、職員で協力して地域の情報を収集していくこととする。具体的には月に1回程度、どのような地域交流ができるか、地域資源があるのか、定期的に話し合いの時間を設ける事とする。また、ご家族のニーズを把握することも検討していく。   |
| 2 | 多職種連携、関係機関との連携がまだまだこれからである。   | 対外的には管理者が連絡・連携の要となっていたが一時休職したこともあり社内、社外それぞれの業務の連携が混乱してしまった。管理者復帰後にも多くの情報が事業所内での話し合いにとどまり、関係機関からの情報収集や共有に至っていない。                                  | 放デイの嘱託医は1名の医師が良いが、当事業所では3法人の嘱託医と連携しており定期的な訪問、健診を受けている。昨年より利用児さんそれぞれの担当制を導入し、情報の集約や、関係機関との連携等についての改善に努めている。一番お子さまの事を理解し、連携できるのが担当スタッフとなれるよう事業所内カンファレンスなどの情報共有も促進していく。                         |
| 3 | 今年度の保護者アンケートからは「職員配置数は適切」と考える方が9名おられた、職員からは「日ごとの職員配置数に変動があることが不安」との声が聞かれている事。 | 利用児さんの数や活動予定、職員の休み希望等様々な要因によって、総合的にシフトは決定している。お子さんの安全なケア提供、送迎の実施のために問題のないシフトにはしているが、よりお子さん達と丁寧に関わりたい、もっとこうしたい、という職員の向上心の裏返しがかような回答に繋がっていると考えられる。 | 経験豊富な人材、多職種が勤務する事業所である。支援について真剣だからその見解の相違や衝突があるのも事実である。そういった職種や経験の違いが総合力となって丸ごと事業所の強みとするためにはチームワークの向上が必須だと考える。<br>職員のレクリエーションや意見交換の機会をより積極的に設けて職員間の連携促進を図ります。<br>そのための研修なども実施し、教育体制の構築を行います。 |